



Title	卓子・机・台類の家庭製作 - 農家と木工 (4) -
Author(s)	岸本, 幸安
Citation	琉大農家便り(8): 9-10
Issue Date	1956-07
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19629">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19629</a>
Rights	

防注時済みの豚は耳端に刻印を附して識別を容易にしている。  
 (c) 屠畜義務の履行と殺処分を徹底を図る事。前述の症状の病豚が発見されたら畜主は家畜伝染病予防法の規定に依り直に市町村長或は駐在の畜産技師に届出なければならぬ。此の届出が遅延したり又は届出を怠つたりすれば其間に病毒が散逸し伝染が拡大し又密殺乃至悪質の肉質の届入を招来したために部落全体に累及及ぼす結果となる。又伝染豚は最も危険な伝染源であるから直に殺処分に附し屍体は焼却するか嚴重な消毒を深く埋却する。又感染の疑のあるものは嚴重に隔離監視を行う。  
 (d) 管理人を一定する事又飼料殊に残飯類は煮沸して与え飼槽は食後清水で洗滌し日光に当て乾燥させる。尚伝染病発生時には河川水の使用を避ける事、豚舎の入口には消毒液(例えばクレゾール石鹼液三%液)の踏込みを設け他人の届入殊に家畜商等の届入を厳禁し周囲に鉄条網をめぐらし家畜犬等の放飼

を禁止する事、豚の飼槽の残飼を犬が喰い歩いている状況を筆室は目撃して此は最も恐るべき病毒散布の印象を強くした。  
 (e) 病毒に汚染された畜舎の消毒。一俣病豚が発見すると其の病毒は非常に長期に其豚舎並に土壌に生存すると云われるので其の消毒は徹底を期する必要がある。其の方法としては先づクレゾール石鹼液の三%又はクロールカルキ五%液等で畜舎を洗滌し次いで熱湯で不潔物を洗い落とし更に前記の消毒液を撒布するのである。次いで土床の場合は生石灰等を撒布後此を掘起して運び出して埋没し新土を入れ代える。糞は埋没醗酵せしめるか焼却し尿槽には消毒薬例えば生石灰の場合は使用直前に此に少量の水を加え粉末となし撒布し其の他病毒に汚染された噴のある器具は悉く前記消毒液を以て消毒し病害の皆滅を期する  
 おわり。(宮城 正 夫)

# 卓子・机・台類の家庭製作

## — 農家と木工 (4) —

### 一、機能と構成

卓子や机というものは、その甲板が役割の大部分を果すのであって、他の脚の部分は全く甲板を支える構造的に過ぎない。

壁から脚なしの卓子が無出したり二六脚で床から固定されている卓子があらわれたり、天井から釣られた卓子等はこの夢へ(い)われといえよう。

卓子類は、椅子と同様に、人体の姿態や動作によつて直接関係する家具であるから、人体の動作の補助的役割をもつ道具であるとも云える。又人間以外の動物との関係もあるので軽視することは出来ない。

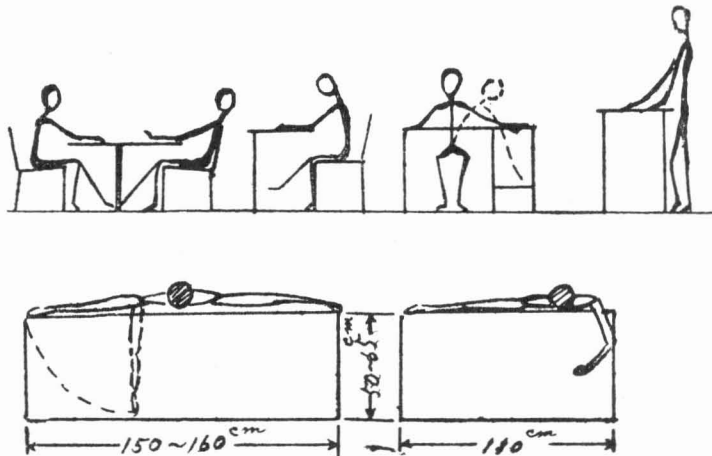
### A 高さ

お茶や雑談のためのテーブルの甲板が低くなつたのは、確かに近代化のものであつて、それはまず休息の姿態で使う椅子が低くなつたことから起つたものである。  
 この椅子と相対的に使うテーブルが、少くとも版木の高さ以上であつては腕の動作に滑りを欠くし、不快なものになるからである。

従つて、テーブルやデスクの高さはわれわれの、姿態や動作特に下肢の水平の運動範囲によつて決るが、更に眼からの距離や、甲板面で扱われる物品の大きさ及び作業の目的如何によつて読書、事務用、食事用、調理用等のような種々の高さが必要とするものが生じて来る。

食事用のテーブルの高さは、普通のデスクの場合より低目の

着尺で二六種(机と椅子との高さの差)がよいという意味がある。それは仕事椅子にかけて食事をとるとき腕や版のなめらかな動作は、版をこいで書き写するときのものより低目の方が望ましいためである。この着尺が余り大きいと動作から起る不快さで食事はますます、落着かないものになる。



外国では机と椅子との着尺は三〇種においているが、日本では二八種が標準とされている。従つてテーブル等の高さを求める際は、使用される椅子が基準となつて、それに着尺を加へればよい。

### B 甲板の面積

甲板の広さは前述の理由から定まるのであるが、今上肢の活



## 読者だより

**質問** 農家であり乍ら蔬菜に専攻く現状であります。保健衛生面から一年中新鮮な野菜をとるには五人家族として、どう計画したらよいでしょうか。面積、品種、各月毎図表によつて御指示御願ひ致します。

名護町普及員 比嘉久三郎

**答** 普通作物が熱量生産を主目標とするに對し、蔬菜はビタミンの生産が目標であると云える。故に最もよくビタミン類を生産する様計画を積てるのが国民のための蔬菜園芸であり、又一家族に對し出来るだけビタミン類を週年供給する様に生産計画をたてるのが自給園芸の目標である。すなわち単位面積からどれだけビタミン類を生産し、どれだけ期間、勞力、資材を要するかと云ふ事を検討して、栽培すべき種品種の選択にかゝらねばならぬ。

自給園に於ける生産計画は、先づ一人三日の消費量及び坪当り生産を基礎にして行われる。大体成人一人当り七〇—一〇〇匁とされる。即ち坪一四—一三六匁である。種目其他にもよるが蔬菜の反当収量を平均三百匁とみれば坪一貫となり、一人当三四、三二坪を要する。平均一回輪作するとすれば、所要の実面積は二十七八坪という事になる。五人家族では六十坪程の自給菜園があると、一人一日三十分の勞力をもつて管理し、肥料も自給可能である。

如何なる種目を栽培すべきかについては、時期、土質、勞力、資材、輪作關係を考慮すべきだが、ビタミンA、B<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、Cの生産力の高いものを選ぶべきである。日本農林省が指定する必需蔬菜は次の十九品目である。

甘藷、馬鈴薯、里芋、大根、ごぼう、かぶ、玉葱、人参、白菜、甘藍、ほうれん草、かぼちや、きゅうり、茄、トマト、そらまめ、えんどう、いんげん、

その内ほうれん草はビタミンA、B<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、Cの生産力極めて

材をはぎ合せて広くしたものであつたが最近ではベニヤ板や良材の薄板貼付によつて板の狂歪をも除くように工夫された。

これらは、従来の耐湿性のない膠に代る強力な尿素樹脂接着剤の利用によつて完全なものになりつゝある。

更に化粧板として、薄い種々の合成樹脂がその表面に貼られたりしている。

又、ホモゲンホルツやメソナイトの様な、木材や植物せん維に化学的処理を行つて造られた人造板を使つて、一層狂歪性が少くなつた。

この新しい材料の発明は、貴重な木材の經濟的利用の上から又、又甲板と脚の結合構造が簡単に処理される点から重要な意義をもつている。

最近、家具材料として石材、ガラス、金属、合成樹脂其他化学製品が登場したが、人間の触感はおくまで木材や植物せん維の軟さを固執して、木材などの自然なものの中から美しさと親しさを求めている。

卓子の脚は、今のところ機能の意味を余りもたないとしても構造的に大きな役割を呈していることは事實である。どのテーブルやデスクも脚がグラグラしたりころころするものは単に不安定な不快感を与えるばかりでなく、卓上の茶をこぼしたり凡ゆる場に不都合が生ずる。だからこの構造は非常に厳しいものでなければならぬ。

卓子類等の家具は、その仕上げの色調、光澤にも重要な意義がある。只今流行の明るく素地色のみが現代人の好みを代表するものとは限らないから、室内の調和を考へて、種々の色調を考案する必要がある。

以上のように、機能、材料、技術の新しい工夫と条件が結合して新しい形態のテーブル、デスク等が創り出されて、われわれの生活を明るく且つ親しみのあるものにする(つゞく)

(岸 本 幸 安)

動面積のみを基準に考えると、机の幅は人の肩巾及び両方へ張つた脇巾である。又大型机のものでは、上肢を左右一杯に伸ばし切つた両上肢間の距離が基準となる。これは最大限である。(図参照)

甲板の奥行は、上肢を前方へ一杯に伸ばした長さを限度とする。

甲板の広さは、又仕事の内容からも決定される。例えば脇卓子などの場合は広い面積を必要としないが、普通の茶卓子では少くとも三・四人以上の人々によつて、ゆつたりとした状態で使用されるため、その大きさは余裕がなければ落着かない。

一般的には、室内面積の經濟的關係から小さすぎるものが多いよつた。卓子の甲板面積は一〇〇種×七〇種以下のものは、高さこの比例から美的なものとはならぬ。

## C 形 態

甲板の形状が横に長い矩形であることはいわれの動作が前後より横の方向に多いからである。又室内の配置の關係や、これを囲む椅子の調和の上から種々の形ものが考えられる。然しこの場合、縦横の均合が非常に大事な役目を果すものである。矩形や長手の曲線的なテーブルは一對一の割合よりもつと大きい比例のものがよい。

これらは脚の長さ及びその位置など均合と共に、テーブルの形状に關する重要な問題である。

机は卓子と違つて甲板の外に、身の廻り品、仕事のための書類事務用具を取納する袖付や引出がついている。

最近では前引出は動作の合理から段々なくなる傾向にある。又袖付の机は重いので、製作の容易と運搬、移動の点から甲板と袖付及び脚部とが別々な組合せになつた構成が多くなつてきた。

其他、現代的な要求である折込卓子は、仕事や人数の増減によつて甲板の面積を変化し得るものであり、折疊式卓子は、部屋の經濟的利用の点から工夫されたものである。

## 二、材料と技術

卓子類の最も重要な部材としての甲板は、そのほとんどが木